高校阿部野新聞

第37号　昭和27年9月8日

高校阿部野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町
大阪府立
阿部野高等学校新聞部
編集兼発行人
宇野正敏

待期 自治會選擧迫る

今日告示、十二日投票行ふ

きよう心気新たに二学期を迎えて、本校にとつては、意義ある三十周年記念の多彩なる秋をむかえる。この盛大であろう記念祭をうしろにひかえて二十七年度後期自治会総選挙は、各方面の注視と期待がかけられ、九月三日に選挙管理委が結成、総選挙は同月十二日になる予定である。

三十周年一この記念の秋をうしろにひかえて自治会総選挙は現在の見通しではほぼ九月十二日頃になる予定であるが、前期自治会の弱体と不手際さに生徒間の信望をやや失いかけている今日、またいよいよ激しくなる時代の波、権力による自由えの圧迫等、学校自治会運営の困難さがますます加りつつある現在、前期自治会よりバトンを引き継ぐ後期自治会の責任は大きいと予想され、またこの後期自治会の運営一つに、明日の阿部野高等学校の発展か否かの鍵が秘められている。

今選挙には気風刷新のために数多い新人の出馬が期待され、また中堅二年生のヴェテラン達の再出馬も予想、或いは一年生の活躍が案外期待されるかも知れない。

なお選挙月程は次のとおりである

八　日　立候補者受付
十　日　締切
十一日　立会演説
十二日　総選挙
十五日　学級議員選出
十六日　学級役員選出

図書館着工近日中に

場所は講堂の上(八十坪)

竣工は十一月末

三十周年記念行事として、記念祭までに完成される筈だつた図書館建設は、つい最近までは一向に着工のようすも見えず、悲観的な観測がなされていたのだが、先月の二十七日、関係者の会合があり、ようやく前途に明るい見通しがついたもようである。事務からの発表によれば、同二十七日、長棟建設株式会社と話しあつた結果、同会社が、これを請負うことに決意した。なお着工は九月一日からの予定であつたのが、天候や手続きの都合で延び現在に至つているのだが、だいたいの見通しでは、十一月末頃には、竣工する予定である。この新図書館は講堂の上に約八十坪、設計費等、諸費を入れて約三百十三万円の予定で話しがつけられたようすである。

完成した暁には、静かで見晴しもよく、読書には最適の場所となろう。もつと早く着工出来るのが、なぜこのように遅れてしまつたのかは、いろいろ理由もあるだろうが、大きな理由として寄附金が集まらなかつたことがあげられようただ単に運動場の隅に木造で建てるような簡単なものならとにかく鉄筋ともなれば、技術、法規、建方法等も研究しなければならぬし基礎工事も困難なので、このように遅れてしまつたそうである。

なお現在の図書部は芝蘭会館の二階をきれいに整理し、当分の間、(新図書館完成まで)そこに閲覧室を設けることになつている。いよいよ待望の図書館建設が具体化されたことは、我々にとつても非常に喜ばしいことである。

図書館は、ようやく着工もまきはとなつたが、この運動場拡張工事には単に資金の悩みだけでない多くの問題を含んでいるように思える。

以下はこの建設費不足の問題を省いて残る問題をひろつて見たのであるが、うまくはかどらず、それを無理に行うためには、現在毎月積立てた金額では、無理な事がわかり、学校においてもこれ以上父兄に迷惑をかけるのもどうかと思案の最中なのである。

聞くところによれば、学校は、この建設費には不足な金額を大阪府へそのまま献金して、それと引替に大阪府から、それを含めてそれ以上に施設費として、あらためて頂くという話である。

このような現状であるので、恐らく建設に着工は来年になり、今年中には、無理であるという見方が妥当である。がしかしも事態が好転し、資金の問題さえ解決がつけば、今年中に着工も決して不可能なことではない。

行詰つた道路・立退き問題

大運動場の夢淡し

第三回 高新連大會開かる

全國高校新聞編集者一堂に集う

本紙清水記者副事務局長に

全国高校新聞連盟主催の第三回全国大会は、去る八月七、八、九日の三日間にわたり都立九段高校で開かれた。全国より集る新聞編集者たちに混つて本紙記者も五日夜行列車で上京それに出席した。

第三回全国大会は、言論の自由がおびやかされつつある現在に高校新聞を編集する悩みを持つ全国の新聞編集達が一堂に会して盛大に開催された。

第一日目は東京都立九段高校において開かれた。

事務局長吉沢宏氏の挨拶に始り、各新聞社よりのメッセージの朗読があり、引続き中央事務局による経中、各総局長による地方情勢の報告等があり第一日目は終了した。

第二日目は同じく九段高校にて開かれ、高新連規約改正が行われ、紛糾を見せたが、可決された。続いて種々の事柄に対する質問会が開かれた。その質問会では、満場騒然となることもあつたが、どうにか終了した。しかし日没の為残つていた議事は明日にまわされた。

尚この日高新連役員改選に、本校清水正明君が、高新連中央副事会局長におされ前任の後を次いで後任ときまつた。尚理事校には府立三島野高校、会計監査校には高津高校と大阪勢の進出は目ざましいものがある。

第三日目は朝九時半より映画〝原爆の子〟を観賞、午後より第二回全国高校新聞大会が開かれ、読売新聞社より教育部長金久保氏、西日本新聞社宣伝部権藤氏の来場があり、二氏の講演にひきつづいて高校新聞編集者の二氏に対する質問等、第三日目は終り高新連総会は幕を閉じた。

この大会に出席して感じたことはこの現在の社会情勢の中に新聞を編集し言論の自由を確保していくことが如何に難かしいことを知る

記念祭は記念式典のみ

秋の行事予定發表さる

去る五日放課後職員会議において全校生の期待を集めていた。三十周年記念祭をふくむ秋の行事予定が発表された。

ところが、多彩なる行事と予想されていた三十周年記念祭の夢も消え、十月二十五日にただ、記念式典のみ行われるのみと淋しい記念祭と化してしまつた。

その他恒例の第五回体育祭は、十月十二日、文化祭は十月十九日に行われることになるだろう。

盛大な記念祭をと希求してそうそう準備にかかつていた各文化クラブも落胆のもようである。がしかし三十周年記念の年の、体育祭、文化祭は、例年にない盛大なものとなる予定である。

ソフト部國連軍と試合?

◇去る八月二十五日十一時頃、本校門前にPXのバス二台が突然乗りつけた。本紙記者、スワツ事件とばかりに探りを入れたところ、ソフト部と国連軍兵隊とが試合をするので迎えに来たと云う話、これはニュースと早速グランド迄飛んで行つた所、何と実際は高島屋との試合とワカり記者タアの形。

松本選手

体操女子国体へ

体操部のホープ松本マチ子さんが来る十月十九日より開かれる国体に出場する。去る十六、七の両日北野高校に於いて行われた体操国体予選で第四位を得、栄れの第七回国民体育大会出場権を得た。なお本校卒業生田中秀造選手(浪大在学中)も同様国体出場権を得た喜びの松本選手は記者の訪問にハニカミながら次く如く語つた。

松本選手談　なんとか予選を通過して国体に出場出来るということはうれしいです。私の弱点跳躍を国体まで十分練習して、出るからにはベストを尽くして阿部高のためやります。

説論　自治會役員選擧を迎えて

長かつた夏休みも終り、いよいよ二学期に入つたが、この秋に沢山予定された行事のうち、まず最初の一つとして、十二日に自治会役員の選挙が行われるのだが、此頃の自治会員の自治会に対する、熱意とか、信頼と云うものが薄れて来ているように感じるのは、あながち私ばかりではあるまい。その理由としてあげれば沢山あるだろう。自治会対自治会員との関係が密接でないと云うことも云える。例えば、定例議会でどんなことが決議され、実行されているのか知らない人が非常に多いし、(これは役員ばかりの責任ではなく自治会員の熱意が足りないということも出来るわけであるが)又、各ホームルームから選出された議員も議会報告などさいたかつてやつたことがないようである。これでは自治会員の熱意がないと云う方が少し無理のようだ、せめて議会のあつた翌日の数分間、ホームルームの時間でも割いて、決議されたことぐらい報告してほしいものである。

一方ではやる気があつても、他の一方が無関心では、のれんの腕おし、車輪の空まわりも当然であろう。よりよき自治会の発展の為には、お互の協力が是非とも必要である。一方だけがいくらうまくやろうと思つても決してよい結果が生まれない。

幸い間もなく行われる役員選挙が絶好の機会である。この機会に自治会員全員の信頼出来る、熱意のある役員が選はれる必要があり、自治会員は、自分達のためにも立派な役員を選ぶ責任があるわけである。我々の、我々による、我々のための自治会を作りたいものだ。

終戦後、嵐の如く学園に湧き起つた自治熱、それが現在だんだんと低調をたどり、崩壊の危機に頻している。これは現在の社会状勢の影響も多分にあるが、最も大きな原因は、生徒自身の自治熱の低調である。しかしこれだけはなるようになれでは済まされないのである。自治への関心が薄らぐということは自分で自分の墓穴を掘つているのにほかならないのである。これに気が付かない筈はないのであるが。再び同じコースを日本にたどらせようとしている政治からくる自由への圧迫からわれわれの自由を守れと叫ぶ。勿論それも自由が失われていく原因であるがしかし、その本質的な自由を自から破棄しようとしているのではなかろうか。破防法は通過した。警察予備隊、新国軍なる軍隊以前と大差ないだろう軍事機関の回復、如何に世の政治家たちの政治力が強いかを物語つているではないか。われわれ青少年学徒の希求はこの権力の前には如何に小なるものか慨歎を禁じ得ない。それ故に団結せねばならないのである。そしてその団結を得るためには、一人一人の自治会員の自治熱の回復をはかる必要がある。執行委の人々は責任は大きい。だが自分たちは選良なのだということを自覚し、またやろうという意志はあるのであるから、過ぎたるは及ばざるが如しとはいうが、少しぐらい行き過ぎることも良い試練となるに違いない。われわれはまだまだ青春の血がたぎつている。何事にも思案つきた時は〝当つて砕けろ〟が必要なのである。

二十七年度執行委の人々は、一学期中に多くの問題にぶつつかつた。まあどうにかそれらの問題は結末がついたが、いささか不手際であつたのと、少し熱意が不足していたのは遺憾なことであつた。

執行委の人々よ、今薄れゆく自治への関心の恢復のために、この記念の年に岐路に立つ阿部野自治会の発展のために誇りを持つて貢献されたい。そして社会に向つてこぞに「府立阿部野高等学校健在なり」と高らかに叫ぼうではないか。

創立二十周年記念懸賞論文募集

新校風をいかに樹立すべきか

本紙三十二号より発表されていました創立三十周年記念懸賞論文〝新校風は如何に樹立すべきか〟は各方面より多大の関心を示され、注目されつゝこの九月十五日に〆切られんとしております。本校の良き伝統を保持し他方より良き方向への発展の一大方針となされるべく諸兄姉の積極的な御協力をお願い致します。

論題　「新校風は如何に樹立すべきか」
規定　四百字詰め原稿用紙十枚以内
〆切　昭和二十七年九月十五日
提出先　直接新聞部及び本紙投稿箱へ

新聞部

新聞の言論の自由を、また新聞の自由を守るためには、前途に如何に多難な障害が横たわつていることをひしひしと痛感する。N記者

高校新聞編集者の苦悩、そして熱と意気に溢れる真剣な顔は、自由をおびやかすものへの力一杯の抵抗そのものである。

同窓會報發行

去る八月十五日、三十周年記念祭を前にして同窓会報が阿部高芝蘭会によつて発行された。

形式はタブロイド八頁で、一面には前校長志賀先生、瑞校長赤間一夫先生、副校長林敏雄先生、及び同窓会長山本敏枝さんらの挨拶を載せている。二面には自治会五ケ年の歩みとスポーツ五年史とを載せ手堅い編集。五面には寄稿三面は文化記事文二題と校歌を載せている。

中間考査

二七、二八、二九日

教務課の発表によれば、十月中に体育祭、文化祭、記念式典も終るので、一応落着いたところで、中間考査を施行するとのことである次は日程

十月二十七日	第一日
二十八日	第二日
二十九日	代休
三十日	第三日

針の穴

▼阿部野高の夏期休暇と新聞は附きものらしい▼今年も又某新聞に一阿部高生実態が記載されていた▼これは何を物語つているか勿論これはある一例外に過ぎないかも知れぬ併し表沙汰になつていない事も他に多くある▲今日黙つて済ませれようか、聞けば他に二三人の本校生が居たという、そして只その事件を傍観していたそうだ▼彼等は高校生としてのプライドさえ無いのだろうか考えさせられるものがある▼世間から新制高校が何かと批判の的とされるのもこんなことが一原因となるのではなかろうか▼もうこれ以上阿部高の名を汚されるのは御免だ▼この様な何等考もなく本校の名を汚がす様な人間はどしどし追放しても然るべきではないか▼一学期に盗難事件がヒンピンと起つた、これからも犯人が在る限り起り続く可能性は充分にある▼学校当局では一クラスの半数人の月謝が盗まれたというのに何の手も打たなかつた▼先生方は事を荒げたくも無かつたのかも知れぬ、併しそれで済まされてよい問題ではなかろう▼この休暇中にクラブ活動を見ているに大会にでも出場しようと考えている所はやはり他部とはチヨツト違う、見ていても張りがある、▼野球部はその一つだが、この夏季高校野球大会、大阪府予選には八尾高に破れ去つたが相手は全国の決勝迄いつたのだから破れて悔無しと云う所▼本校ももう一踏張りして勝つていたならば甲子園で優勝旗位手に入つたかもしれぬ▼ソフトも伝統空しく案外脆く敗れたがまあ併し良く今の様な状態で頑張つてくれたと云わねばなるまい▼が反面現在崩壊一歩手前のクラブが多数にある、と某体育教官はおつしやつたがまさにその通り▼部員達は皆どうしているのか。勉強に家事にと励んでおられるならば誠に結構なことであるが▼それ程勉強がしたいならば最初からクラブ活動等すると云いださなくても良さそうなものだのに▼しかし、二学期はさぞ成績が良くなることだろうと期待する。

新學期より新發足

熱意ないのが〝ガン〟

一時問題を起し一騒せを演じた図書部も、着々元の姿に帰りつつあり、ようやく落着きを取り戻して、その後、図書館建設等の波瀾を孕みながらも順調な足並を見せ今や更にまた第一歩から踏み出さんとしているが果して図書部運営など外見の如くスムーズに行つているか、今一歩奥深く入り込んで見廻して見ようーY記者

図書部後日譚

圖書部員の不足

現在の部員は三十余名であつて全々引退して了つた三年生を除けばかり、その内他の残クラブに漏れず籍だけの部員が半数ほどいる。結局図書部として名の付くものは十名足らずになつて了うそうだ。既報の図書問題で崩壊一歩手前迄来ていたので一旦学校当局で図書委員を決定したが、その人達に勧誘の手をのばして部員の増加をしたわけだがその人達のクラブ活動は五六人動いているそうだ。旧部員も解散したものと思いこれ幸いとばかりに離巣するものが多く旧部員の手慣れた者は主脳部だけが残つているだけであるとにかく、このような現状であり一部の人が休暇中に一週間に四日位来るのみで、もつと一年生の入部及び熱心な部員を求めている。

難題の藏書整理

大阪府でも多い方だといわれる蔵書の現在整理も出来ておらない。その原因も部員の不足、不慣れなどの幣害によりなかなかはかどらぬそうだ。しかし熱心な部員は二学期からはわれわれがと意気込んでいる。

「今迄は整理もできず、利用者に誠に御迷惑をお掛けしていたが二学期からは新図書館は出来ない迄も頑張るつもりだから御期待を乞う。しかし、何といつても諸君の御協力を得ないことには」と関係者は語つている。

閲覧室の不備

図書部の持つ最大の問題は閲覧室のないことにあつた。図書室には閲覧室が付きものだのにそれが無くて不具者の形だつた。新学期からはガラクタ同然の机、椅子を整理して、新館建設まで間に合しておくそうである。

圖書館問題

昨年大々的に本紙でも発表された図書館建設はあの後どうなかつた何の音沙汰もない。五月着工、十一月には竣工と云つておきながらと、部員の、或は利用者の大きな不満的となつている、図書部員にしても新館は期待もせず、現在の乏蘭会館で辛抱するが、

圖書部から見た

只本館と離れている為、生徒との直結が困難で利用者も割合少ないのが事実である。

大体以上であるが、図書部にとつてはある忌わしき学校のヨコヤリが図書部活動の中絶に原因したようである。結局、新学期から新規まき直して行きたいと考えてもよいのだろう。

夏の特集

晴天霹靂 立体精浮 お山は富士登山記

もう相当涼しくなり秋の虫の音を聞いていると、長かつた夏期休暇の楽しい想い出、嬉しかつたあの日、色々な回想が読者の胸にも浮んで来ることであろう。その秋虫の鳴き盛る夕べに、本年度卒業生米尾成人氏・小畑清子嬢両人にこの夏の思い出、シンドクも楽しかつた富士山麓登記をつ語つて頂いた。

米尾　僕は十六日夜行で発ち翌日十一時頃登り出して八合目についたのが四時半だつたナ。二人でネ、友達と……。

小畑　従兄妹と四人で登つたワ。

米尾　バスで二合目迄行くのだが僕達汽車から降りたのが一番最後でネ。バス停留所迄の途中前の人を抜かして了つて乗つて待つていたンだが、仲々出ないので聞くと最後の二人を待つているという、それは僕達のことだつたんですよ。（笑声）

記者　登り道はどうでした？

米尾　富士の麓に木はあるが雷に割られ気味が悪かつた、二合目の所に唐松があつたネ。三合目は小さい木が生えているだけ。バスを降りて二合五勺迄が一番しんどかつたナ。何といつてもリユックが重たくて、一人の奥さん等途中でノビていたヨ。ネ

小畑　約二時間程乗るんですがネ三百円で乗り確えはあるネ。

米尾　山の上は寒かつたナ、摂氏四度以下だ。一日で四季を味わつて来たヨ。（笑声）

小畑　頂上ではネ。雪水で御飯を炊き、八十八度で沸騰するンで

米尾　いやしなかつた、周ると一

小畑　夕方、宝永山から富士が写り雲が一面、下の方に見えてきれいで、雲に乗つても落ちないような気がして、何とも表わし様の無い気持でした。

記者　乗れば久米仙人の二代目になりますヨ。（笑声）

小畑　アンナ所にいると他人より一段偉くなつた感じ……。

米尾　そうた、優越感を感じる。

小畑　鉢めぐりはした？

記者　金剛杖の焼印は？

米尾　一つ焼き附けるのに十円ヨ、旗

小畑　八合目に三つあつて一番大きいネ。五十人位雑居寝できるワ。とても寒くてね。フトンは一枚だし　服を着て寝たワ。

小畑　絶対リユックでなくては駄目ね。とても手で持てない。金剛杖は絶対の必要性を感じるワ私はカメラさえ肩に食込んで重たかつたワ。（笑声）

記者　一つ焼き附けるのに十円ヨ、旗らぬ位だ。走つている間は少しもシンドクないんだ不思議だ。

小畑　私も途中で転げてリユックに入つた砂を御土産に持ち帰つたワ。（笑声）

米尾　僕のは頂上の石だ。

小畑　降りる時はとても気持が良い、やつぱり登山はケーブルなんかじゃ駄目ネ。

米尾　頂上は電気もつき電話もあります。

小畑　夕焼けも日の出に劣らず美しかつたワ。

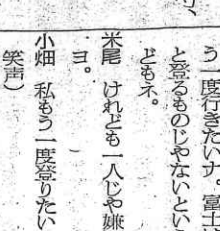
米尾　一番美しかつたのは宝永山の絶壁あたりと日の出だ。

小畑　私も途中で転げてリユックに入つた砂を御土産に持ち帰つたワ。（笑声）

米尾　八合目でパンパンと音がしたんだ、雷かと思つたら機関銃の音でしてネ、安心した、高山になると雷は人間に落ちるからね、雷は恐いヨ。

記者　馬等登つていますか？

米尾　ウン、強い馬で七合七勺、



馬返しといつて普通の馬は七合二勺迄登るそうだ。

記者　では、帰途や車中で面白かつた事は？

小畑　汽車で外人が来て、日本語で〝富士登山三行ツテ来タノ〟と聞くのヨ、イエスイエスと答えてネ大笑いだつたワ、杖やリユックに触つてね、珍らしいのネ、杖をついてたワ。（笑）

記者　やはり外人も登つてた？

米尾　二人程見掛けた、腰が高いせいか、弱いね、強力を連れていた。八合目で五百弗落したと聞いた、換算して十八万円か、違うな外人は……。（笑声）

小畑　朝、顔を洗う水が無いのでコールドクリームでやり、水筒の水で口を濯いでネ。（笑声）

記者　喜劇だナ、前代未聞だ。

小畑　小屋で、食事の時、みそ汁一杯二十円で買うのヨ、（笑）

米尾　僕は降りてから洗つた。

記者　皆さん、又登りたいと思われますか。

両人　ええ、チヤンスがあればもう一度行きたいナ。富士は二度と登るものじやないというけれども。

米尾　けれども一人じや嫌になるヨ。

小畑　私もう一度登りたいワ。（笑声）

両人　大変良い想い出だヨ。楽しかつたナ。

記者　仲々面白いお話を聞せて頂いて有難う御座居ました。

もう一度行きたいネ

壯觀だつた日の出

記者　日の出を見たのは？

米尾　八合小屋で宿つたんだから朝、又遅れてネ、暗いし、ガイドは先へいつちやうし、無茶苦茶進んでなんとか見られた。

小畑　私は三四枚着た上にレインコートを着ていたワ、それでも暑くないからね、太陽が上る時はとても周囲が明るい、目が痛い位ヨ。

記者　小屋はどの様なもの？

米尾　幅は十メートル、奥行が五メートルだナ。滑べらぬ様に少し掘つて囲つてある、屋根や壁は石が敷きつめてあるンダ。

小畑　頂上の方では水を大切にしますヨ、ほとんど雨が降らないからネ。

米尾　お茶一杯二〇円で、美味いお下で飲めば美味くないのだろうが……。

記者　小屋はどの様なもの？

米尾　幅は十メートル、奥行が五メートルだナ。滑べらぬ様に少し掘つて囲つてある、屋根や壁は石が敷きつめてあるンダ。

時間半だろ、噴火口は、チヨツト恐いね、埋もれているが…。

米尾　宝永山の上方は美しいネ、下方は断崖でしてね、キレイがつたナ。

記者　落伍者はどうなるの？

米尾　小屋でパツクして休んでいるより仕方がないね。落伍者には五合目で落人めぐりなんてあるんだヨ。

小畑　五合目から二合目迄八キロ程砂地の直線コース。急傾斜で自然に走り出して終りますヨ。

米尾　曲らず真直で転ばないと正は三十円だつたワ。鈴も十円。

宿敵八尾高に敗る

全国高等学校夏季選抜野球大会大阪府予選は、去る七月十九日より四グランドに於いて行われ、連日熱戦が展開されたが、本校は三回迄の善戦も空しく、四回戦で強豪八尾に惜敗した―以下はその戦績

一回戦

港	0000000000＝0			
本校	00200013 0A＝9	24	11	4 0
		打	安	三四失
港	早川―近沢			
バツテリー				
阿	山川―小池	21	8	9 1 2
		打	安	三四失
二塁打	小泉、条2池田、上田			
	阿）今津（港）			

二回戦

京阪	3100000000＝4			
本校	02000021 A＝8	29	9	7 4 1
		打	安	三四失
京	河知―中村			
バツテリー				
阿	山川―小池	33	8	11 7 2
		打	安	三四失
二塁打	条、小池（阿）林、河知			
	辰馬（京）			

三回戦

本校	0050000000＝5			
上宮	0000002000＝2	33	6	5 2 5
		打	安	三四失
阿	山川―小池			
バツテリー				
上	鈴木―辻本	33	3	13 4 2
		打	安	三四失

四回戦

本校	0000000000＝0			
八尾	0000003 2A＝5	33	5	5 1 5
		打	安	三四失
阿	山川―小池			
バツテリー				
八木・村―植田		33	7	5 1 0
		打	安	三四失
二塁打	条（阿）西井、法元（八）			
	三塁打　条、小池（阿）			
	二塁打　清水（上）			

期待される鹿間中家選手

石原卓球部主將談　国体卓球予選は、月六、七の両日藤井寺寺で行われるが、卓球部では松山三和（男子）鹿間、中家、小林（女子）の五選手が出場する。その内でも鹿間、中家選手が最も期待されベスト8突入は必至と見られる。

好調を伝えられる本校卓球部新鋭鹿間選手は、先日長崎へ遠征好成績をおさめ帰阪したが、今度行われる国体予選に出場する。

ぐんぐんと躍進する本校スポーツ界の中でも卓球部は指折り数えられているが、各大会に選手を送りなかなかの好成績を上げている。

映画評

君去りし後

▲第二次大戦下、夫を戦線に送り出したアメリカの中流家庭、妻（C・コルベール）のアンは共に残された二人の娘（J・ジョンズ、S・テンプル）と愛犬との淋しい日々がつづく。幼馴染で海軍士官のアントニイ（J・コツトン）のしばらくの滞在でアンの心の晴れる日もある。また同居人の老大佐の息子（R・ウオーカー）と妹娘が恋したりする。

▲姉娘の恋人も出征する。その時に前線において消息不明になつた父の悲報は一家を忽ち悲しみのどん底に投げこむがやがて一家は気を取りなおして雄々しく生きぬくそしてクリスマスの夜、夫が無事帰還の報が一家を狂喜させる。

▲M・B・ウイルダーの原作を〝風と共に去りぬ〟のセルズニツクが製作、脚色して、I・クロムウエルに演出させて作つたもの。この音楽は四四年度のアカデミー作曲賞を得ている。良い曲であるがぼんやりみていると良い所がわからないかも知れない。俳優もワキ役まで大物をそろえているがストリーが銃後人情で平凡なのが惜しい。カメラも美しく、最後に喜びに輝く人々を二階の窓に並ばせて雪のふるクリスマスの夜景を壮厳に映し出してラストシーンは終るがこの場面の描写は美しい。戦争中の女ばかりの家庭の愛と喜びを、そして悲しみが色々たる演出で描き出され、なにかほのぼのとした心あたたまるものがある。

毎度有難う御座居ます

ラムネ、サイダー祭抽籤發表

特等　50,000
11組　765202

一等　5,000.00
4組　009335　743554　588409
676141　133577

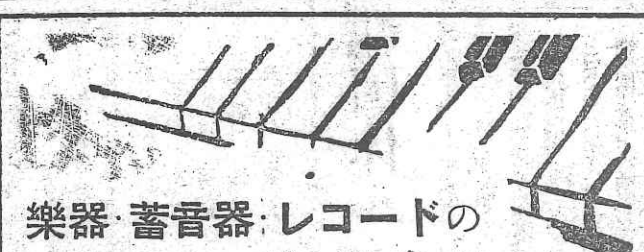
二等　1,000.00
3, 1, 9, 8, 4組　下5桁　880797
42150

三等　200.00
各組　81598　04976　59066
78343　57416

四等　100.00
特等を除く　9000
各組の下四桁　7570

当選者は食堂迄抽籤券御持参の上お受取りに来て下さい。

校内食堂　みのわ



樂器・蓄音器・レコードの
御用命は
響榮樂器へ
阿倍野筋七の六八
上町線東天下茶屋駅東の辻角
電話　天下茶屋(66)2462